

# 平成29年度 校内研修計画

## 1 昨年度の取組より

昨年度研修テーマ「自ら学ぶ」生徒の育成～「つながり」を意識した学びの場づくり～(1年次)～

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"><li>○「つながりを意識した振り返り」実施による授業改善への意識の向上</li><li>○授業の中で、生活班による話し合い活動の実施</li><li>○「話し合い活動のスタートライン」作成</li><li>○校内授業研究会の積極的実施(ユニット型研修、授業公開)</li><li>○周陽自学スタンダードの全校実施</li><li>○自学ノートの取り組み方が全体的に向上</li><li>○自学応援し隊による、全教職員による自学ノートのチェック</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○「言語活動の充実」についての教科ごとの研修</li><li>○学習環境の整備(司会のしかたのマニュアルづくり、ホワイトボードの設置)</li><li>○「振り返り」「授業評価」の継続実施と効果的方法の検討</li><li>○自学タイムや自学ノートとのリンクを意識した授業づくり</li><li>○真の学力向上につながる自学ノートの取組</li><li>○学力向上に向けた補充学習のあり方</li></ul>

## 2 今年度の学校教育目標

「心身ともにたくましく 自ら学び 共によりよく生きようとする生徒の育成」



- 自らの課題を見つけ、解決しようとするチャレンジ精神
- 自らの考えに基づいて、判断しようとする探求力
- 知識・技能を活用し、新たなものを創造しようとする力

## 3 研究主題

「自ら学ぶ」生徒の育成  
～「つながり」を意識した学びの場づくり～(2年次)

## 4 キャッチフレーズ

RPDCAで「わかる・できる・伸びる・楽しい！」

Recognition (再認識)    Review (見直し)  
Research (調査研究)    Reflection (省察)

R…Research	課題の把握
P…Plan	計画
D…Do	実行
C…Check	評価
A…Action	改善

## 5 研究仮説

授業や特別活動等の中で、生徒と生徒、教師、教材などとのつながりを意識して、学びの場を仕組んでいくことによって、生徒が自らR P D C Aを意識して「わかる・できる・伸びる・楽しい」を実感し、自ら学ぶ生徒を育成することができるだろう。

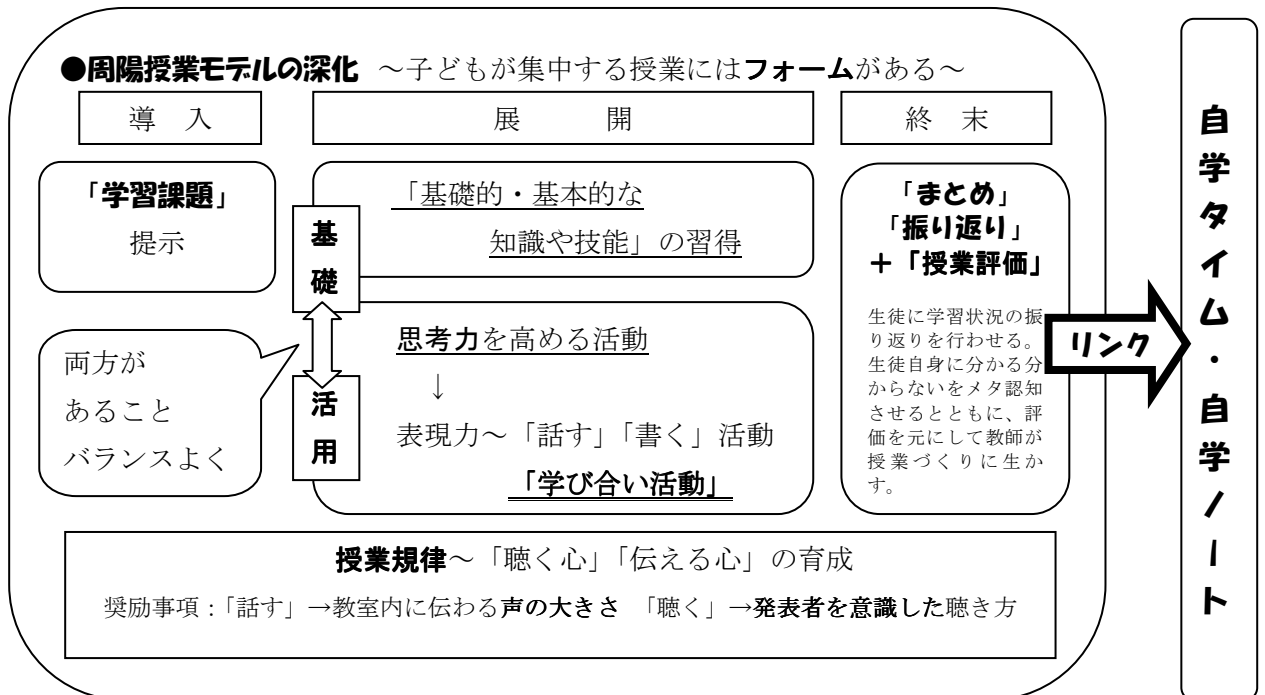
## 6 研修内容・方法

R P D C Aサイクルを意識して研修に取り組むことで、研究主題の達成に迫る

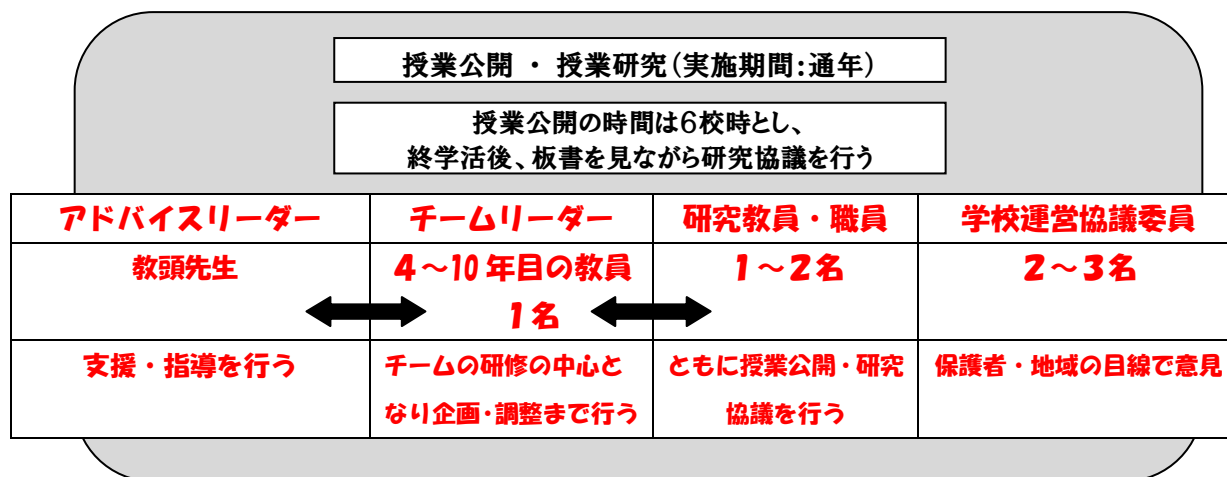
検証改善サイクル	生徒	教師
R 課題の把握	「授業の振り返り」で学習状況の自己評価 ～分かったこと・分からなかったことの把握～	「前年度の振り返り」を分析し、現在の自分の得意と苦手を確認把握
P 計画	「自学タイム」で家庭学習の計画立案	「自己目標シート」で授業力向上のための自己目標の設定
D 実行	「自学ノート」で家庭学習の充実	「日々の授業」「授業公開」で自己目標に添った実践
C 評価	「自学ノートの振り返り」で達成状況をチェック	「生徒の振り返り」で授業の振り返り
A 改善	「翌日の授業、家庭学習」で学習の取り組み方を見直し、改善	『C評価』をもとにしなが授業改善を行い、よりよい授業実践へ

### ①「授業」

- ・周陽授業モデルの実践→学習課題の提示・まとめ、振り返りの充実、言語活動の充実
- ・「自学タイム」「自学ノート」へのリンクを意識した授業づくり
- ・「振り返り」「授業評価」の完全実施



- ・人材育成、コミスク充実の視点による「授業公開」システムの拡充
- 授業公開チームにはコミスクの視点を取り入れるために、学校運営協議委員の方にも参加していただき、幅広い視点で学力の向上、心豊かな生徒の育成につなげていく。



### ②「自学タイム」

- ・周陽自学スタンダードの全校実施・徹底
- ・効果的な実施時間の検討
- ・自学タイムの充実（昨年度の取組に改善を加えながら、より充実した時間へ）

### ③「自学ノート」

- ・大学ノートの利用による家庭学習の充実（振り返りからつながる家庭学習）
- ・自学応援隊の継続
- ・真の学力向上につながる自学ノートのあり方について

### ④「その他研修の充実」

- 1 教科部会での、「言語活動の充実」について、研究を進める。
- 2 「道徳」「特活」「特別支援」「部活動」「復伝」など、様々な内容を研究内容として取り上げ、幅広く研修を行い、教師力の向上を目指す

## 7 研究推進組織

